

私たちは“空き家をつくらない”ことを本気で考えているチームです

空き家問題と可能性

「空き家の課題」には様々なミスマッチが起きています。

我々は現代社会における可能性“シェア”・“連関”・“交換”をキーワードに、
ミスマッチを解消する3つの対策を提案します。

課題

MISS MATCHING している項目

高齢世帯・住民 (住宅所有者)

- 1: 大切な家売りたくない
- 2: 家の利活用が面倒

若者世帯・移住者 (住宅所有なし)

- 1: 公営住宅だと手狭
- 2: 賃貸できる空き家がない
- 3: 地域コミュニティに入りづらい
- 4: 良い土地・建物が見つからない
- 5: 畑が気軽に借りられない

地域性

- 1: 地域コミュニティの希薄化
- 2: 伝統文化の断絶

ライフスタイル

- 1: 多拠点生活をできる家が見つからない
- 2: リモートワークできる拠点がない

産業

- 1: 担い手がない
- 2: 技術の継承機会がない
- 3: 仕事が少ない

空き家 共通事項

- 1: 改修費用の負担が大きい
- 2: 耐震改修の費用を捻出できない

大きな空き家

- 1: 維持管理が大変
- 2: 高齢者だけでは使いきれない
- 3: 冬は寒く老体に堪える
- 4: 大きな農地、山林の維持管理が大変
- 5: 家の一部しか使っていない
- 6: 仏壇や敷地内のお墓はそのままにしたい



可能性

社会やライフスタイルの変容による3つのキーワードと効果

“シェア”

- 1: 大きな建物が有効活用できる
- 2: 農地や山林が維持管理しやすい
- 3: 1世帯あたりの費用負担が減る
- 4: 家主が貸しやすくなる(いつでも帰れる)
- 5: コミュニティが生まれやすい

“連関”

- 1: 都合の良い部分だけ貸すことが可能
- 2: 互いに不足した部分を補える
- 3: 居住地や賃貸料の選択肢が増える
- 4: 地縁の関係が強まる
- 5: 教育の場が生まれやすい

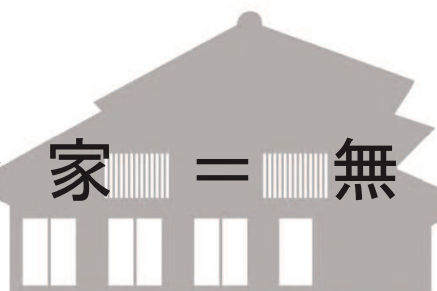
“交換”

- 1: 互いの不足部分を補完できる
- 2: 初期費用がかからない。

提案

みんなでシェアする
ステキなシンボル

空き家 = 無形資産



建物として残すこと
皆で残す過程を共有
残す姿勢を次の世代へ

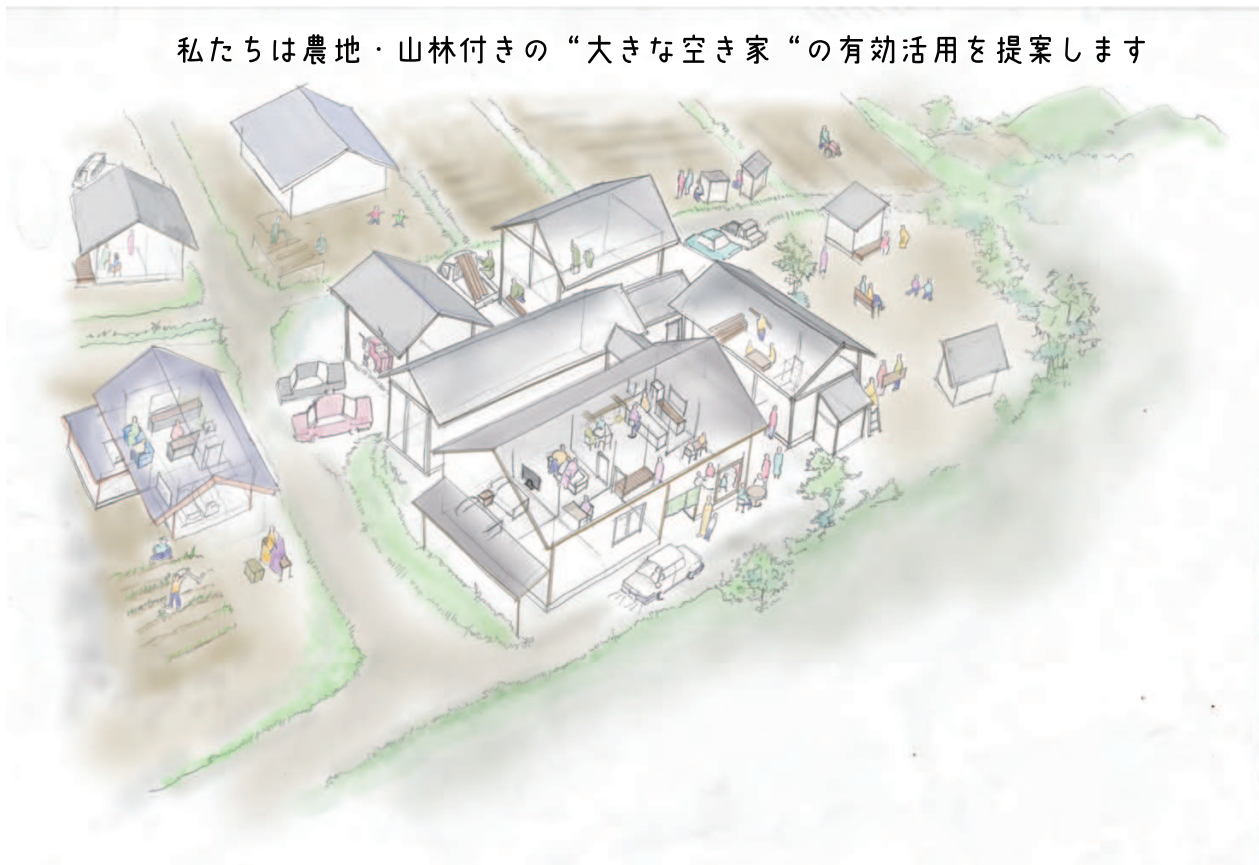
空き家を扱うことは建物を扱うだけにとどまらず
地域や町並み育て、これまでの歴史を次世代へ繋ぐこと。

伊勢神宮 式年遷宮

新しい世代に大切なのちと匠の技を伝える。自然に対峙するのではなく、自然に寄り添う普遍（不変）のかたちを維持する。長い伝統を大切に守りながら、常に若々しい世界を維持する。途絶えることのない心の絆として、遠い先祖と私たちをつなぐ。

みんなでシェアするステキなシンボル

私たちは農地・山林付きの“大きな空き家”の有効活用を提案します



課題・背景

1：農村部の大きな家が空き家になる要因

長野県内の農村部の調査を進めるにつれて、“地域性をもつ歴史的価値のある大きな家”（通称：大きな空き家）から空き家となっている傾向が見られた。
要因としては、“大きい空き家”は膨大な面積の山林や畑を所有していることが多く、若い世帯が購入・賃貸しづらい状況があげられる。また、何代にも渡って継承してきた居住者は家に対して強い想いを持っていることが多く、誰にも相談したり売買したりせず、建物が朽ちるまで所有するケースが増えている。



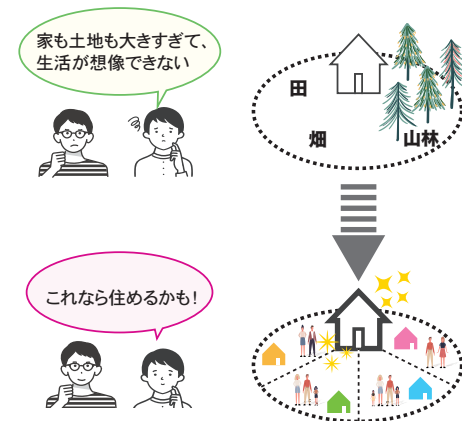
2：生活スタイルとのミスマッチ

大きな家の使われ方について調査をすると、高齢者の多くが大きな家の一部分だけを生活空間として利用していることがわかった。利用していない部分は、空き家同様に入居ができず急速に朽ちるため、地方の残すべき風土にあった建物が受け継がれにくい状況が生まれている。



3：若者世帯の移住・定住環境の考察

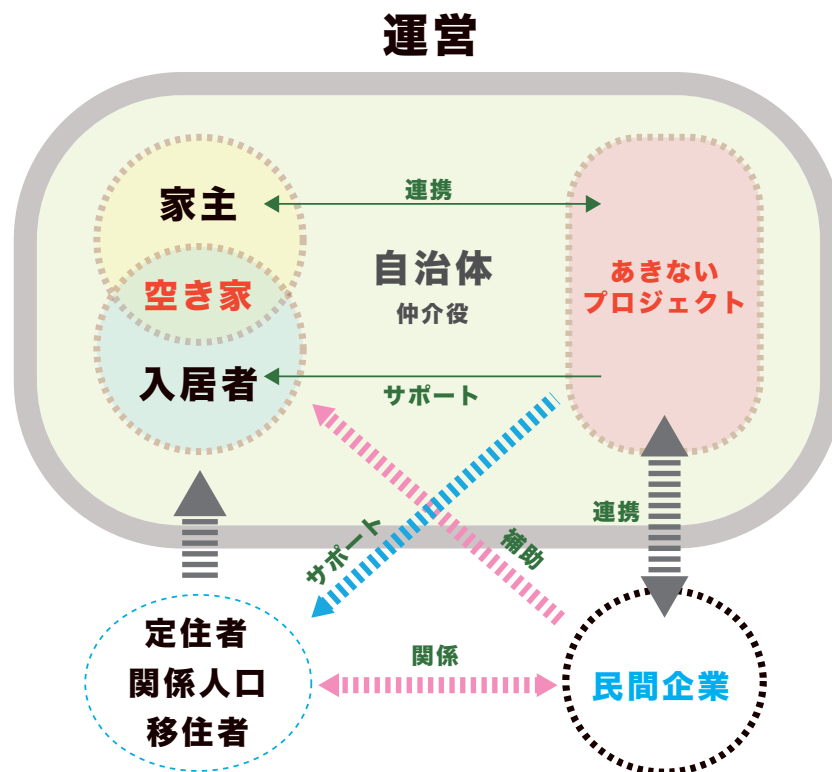
多数の市町村にヒアリングする中で、どの自治体も地元や周辺地域から移住・定住を希望する若者世帯から問い合わせが来ていることがわかっていて、ただし、農地付きの大きな空き家は現代の核家族から好まれず、成約するに至らず結果別の地域へ移住定住してしまう事例が多くみられる。
また、公営住宅がある地域であっても同様のことが起きており、子育て世帯で手狭になった世帯が近隣で土地を探す全く出でず、やむ無く慣れた集落を離れる選択をするケースが増えている。



提案：みんなでシェアするステキなシンボル

“大きな空き家”を移住・定住希望者（家主）の余白空間としてシェアすることで、お互いの生活スタイルを柔軟に受け止める、地域にとっての素敵なシンボルにする。

持続可能な運営・体制づくり



空き家プロジェクトが運営主体となり、地域住民と家主、地域貢献したい（担い手を募集する）民間企業と連携して持続可能な体制をつくりま

大きな空き家に寄りそう、ちっちゃな家を設置します。



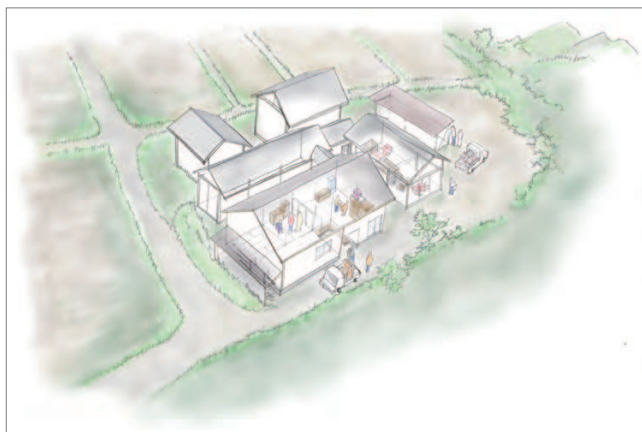
人口減少・核家族化が進み
大きな家・土地の維持管理の負担増

古民家をシェアするちっちゃな家をつくることで若者世帯の定住を促進し
地域にコミュニティの拠点を形成します。



空き家が有能な余白となり
活用の自由度がUP

変更前



変更後



大きな空き家に寄りそう、ちっちゃな家を設置します。

ケース1：単身世帯

単身世帯用の小さな住まいを提供する。
小さな建物は地域産材を利用して、地域の職人の指導の下、住民参加型ワークショップで建てられる。造り手の育成にも寄与する。



住民・関係人口によるセルフビルド

敷地内の使わない建物をみんなの力で改修していく。
老若男女、改修に関わり技術を学んでいく。
建築士や職人によるレクチャーで建築の知識を深め、皆で建物と町並みを残すことのできる持続可能な仕組みをつくる。

車や農機具のシェア

入居者がシェアできる車と駐車場を確保する。車がない移住者の助けになったり、各世帯の車の所有台数が減らせるかもしれない。
農機具を利用することで、農作業が容易となる。また、シェアによりお試しでも色々なことにチャレンジすることができる。

ケース2：子育て世帯

最低限の面積で建てられているため、家賃や購入費用が安く入居しやすい。また、空き家の道具をシェアできるため、入居後すぐに農作業や日曜大工などの作業ができる。子供が増えた場合も空き家の部屋を無料でシェアできるため、生活スタイルを柔軟に調整することができる。

ケース3：小屋・東屋

1~2日の短期間で建設可能な簡易ユニット。建築も解体も比較的簡単なものである。イベント時に建設して、休憩所などとして使うのも良い。ショートステイの場所として機能する。

ストックヤード

建物改修で出てきた古材や、地域産材をストックしたり、イベント時の備品を置けるスペース。地域共有で管理をしていく。

母屋の利活用

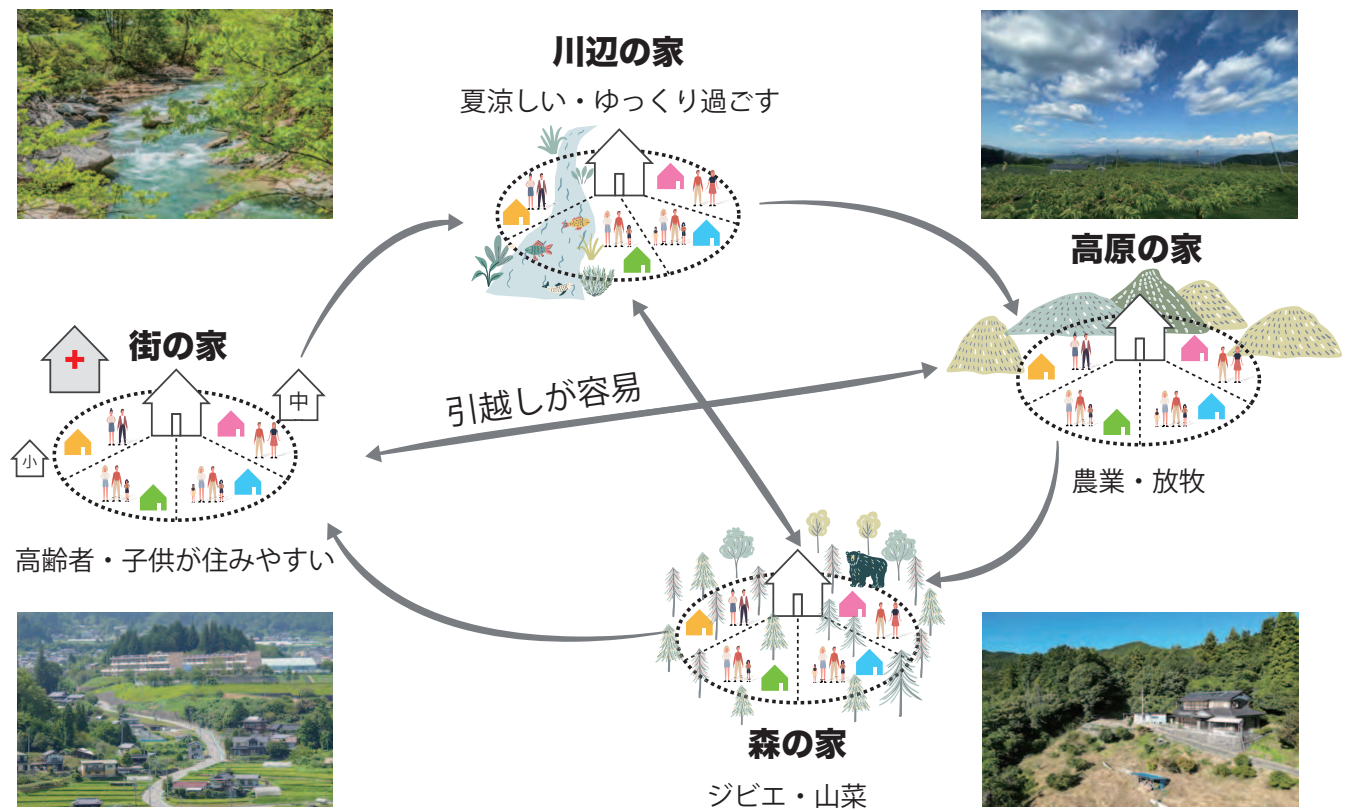
ちっちゃな家にとって大事な自由度の高い余白空間。空き家の専有者を作らないことで、活用の自由度が増すことを狙っている。部屋の一部が大きなリビングのようなスペースとなったり、子供が多い世帯の受け皿(子供部屋)になるかもしれない。日常的に児童待機場場になったり、住民との交流・憩いの場(カフェなど)として利用されることを想定している。
また、自由度を高めたことで家主がいつでも帰ってくることもできる。仏壇やお墓を気軽に拝みにくくすることも可能となり、家主も引き渡ししやすい運営方法とした。づつ徐々に改修を行っていく。

農地の共同耕作

広大な農地を共同耕作することで、一世帯の労力の軽減を図る。
共同経営のため、新規入居者が農地を借りやすい。

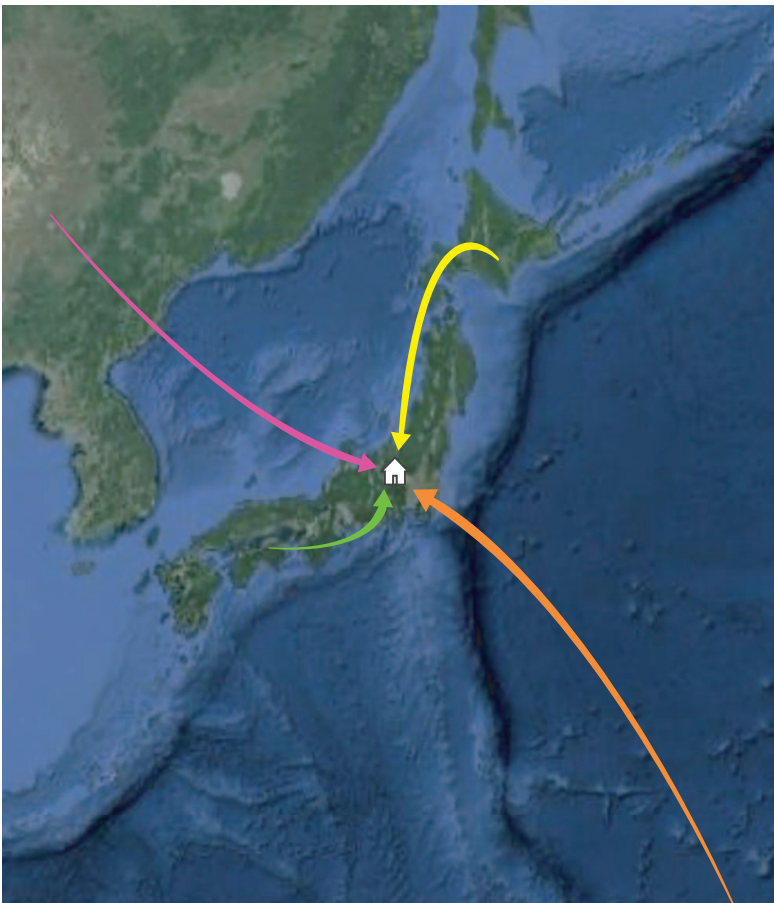


地域性を活かした生活スタイルの提案



地域性や空き家の特性に合わせた生活スタイルを築くことができる。
各地区の人数・バランスに合わせて新築部分の移築が可能。

核となる大きな空き家は更なる繋がりをもたらします。



家主の居場所

空き家の持ち主の多くが、その土地を離れている。そのような家主がいつ帰っても宿泊できたり、仏壇を拝めるような体制・運営を作り、持続可能な居場所とする。

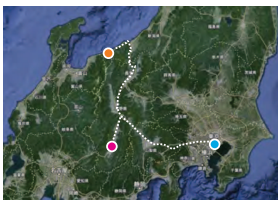
子供が帰れる実家

「ちっちゃな家」を出た子供がいつか故郷を訪れる時、両親は別の場所に暮らしているかもしれない。しかし、余白となっている空き家はそこにあり続け、いつでも実家のように迎え入れてくれる。



民泊として利活用

空き家は、組織された組合によって民泊として活用することも可能。収益により、空き家の改修や増築の資源、さらには住民の生活の足しにすることも可能。



多拠点生活の推進

容易で安価に建物を賃貸できるため、多拠点生活がしやすく、関係人口作りなどの拠点となる。また、地域の人との設定を作り出せる場となる。

地域性を考慮した「ちっちゃな家」のデザインコード

SS

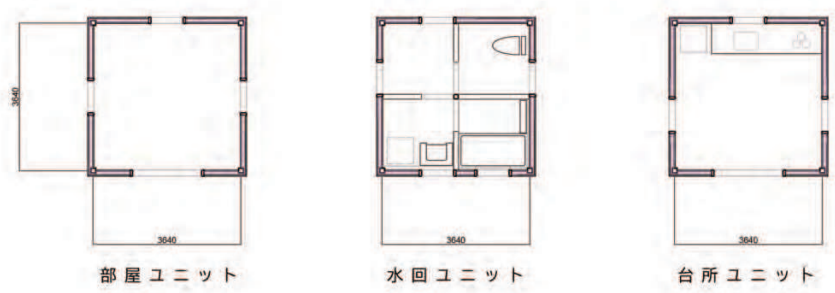
2つのサイクルが地域循環と文化継承をおこす



地域性を考慮した「ちっちゃな家」のデザインコード

とっても小さな家

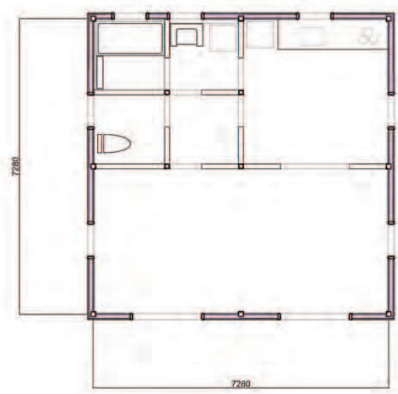
手作りしやすいサイズ感



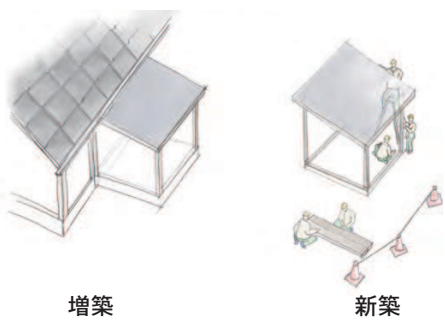
デザインコード

- ・みんなでつくる
皆でつくり愛着のある場へ
地域の職人による地域の技術
伝承の場となる
- ・地域の材でたてる
地域材活用にこだわる
古材も積極的に活用。地域らしさ
は生れます。

小さな家



単身者想定 の 小さな家
各ユニットが組み合わせられて造られます。



私たちは“空き家をつくらない”ことを本気で考えているチームです

空き家問題と可能性

「空き家の課題」には様々なミスマッチが起きています。

我々は現代社会における可能性“シェア”・“連関”・“交換”をキーワードに、
ミスマッチを解消する3つの対策を提案します。

課題

MISS MATCHING している項目

高齢世帯・住民 (住宅所有者)	1: コンパクトな家に住みたい 2: 大切な家売りたくない 3: 家の利活用が面倒
若者世帯・移住者 (住宅所有なし)	1: 賃貸できる空き家がない 2: 地域コミュニティに入りづらい 3: 良い土地・建物が見つからない 4: 畑が気軽に借りられない
地域性	1: 地域コミュニティの希薄化 2: 伝統文化の継承
ライフスタイル	1: 多拠点生活をできる家が見つからない 2: リモートワークできる拠点がない
産業	1: 担い手がない 2: 技術の継承機会がない 3: 仕事が少ない
空き家 共通事項	1: 改修費用の負担が大きい 2: 耐震改修の費用を捻出できない



可能性

社会やライフスタイルの変容による3つのキーワードと効果

“シェア”

- 1: 大きな建物が有効活用できる
- 2: 農地や山林が維持管理しやすい
- 3: 1世帯あたりの費用負担が減る
- 4: 家主が貸しやすくなる(いつでも帰れる)
- 5: コミュニティが生まれやすい

“連関”

- 1: 都合の良い部分だけ貸すことが可能
- 2: 互いに不足した部分を補える
- 3: 居住地や賃貸料の選択肢が増える
- 4: 地域自治の連携が強まる
- 5: 教育の場が生まれやすい

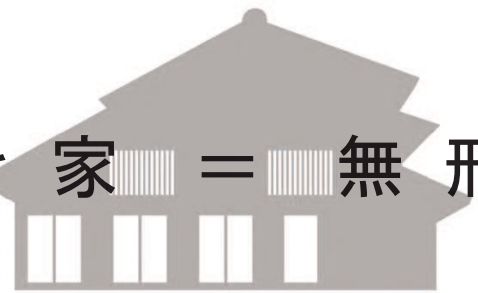
“交換”

- 1: 互いの不足部分を補完できる
- 2: 初期費用がかからない
- 3: 即効性がある

提案

空き家アパートメント

空き家 = 無形資産



建物として残すこと
皆で残す過程を共有
残す姿勢を次の世代へ

空き家を扱うことは建物を扱うだけにとどまらず
地域や町並み育て、これまでの歴史を次世代へ繋ぐこと。

伊勢神宮 式年遷宮
新しい世代に大切なのちと匠の技を伝える。自然に対峙するのではなく、自然に寄り添う普遍（不変）のかたちを維持する。長い伝統を大切に守りながら、常に若々しい世界を維持する。途絶えることのない心の絆として、遠い先祖と私たちをつなぐ。

空き家アパートメント ～地域で連携して住う～



課題・背景

1：農村部の大きな家が空き家になる要因

長野県内の農村部の調査を進めるにつれて、“地域性をもつ歴史的価値のある大きな家”（通称：大きな空き家）から空き家となっている傾向が見られた。
要因としては、“大きい空き家”は膨大な面積の山林や畑を所有していることが多く、若い世帯が購入・賃貸しづらい状況があげられる。また、何代にも渡って継承してきた居住者は家に対して強い想いを抱いていることが多く、誰にも相談したり売買したりせず、建物が朽ちるまで所有するケースが増えている。



2：生活スタイルとのミスマッチ

大きな家の使われ方について調査をすると、高齢者の多くが大きな家の一部分だけを生活空間として利用していることがわかった。利用していない部分は、空き家同様に手入れができず急速に朽ちるため、地方の残すべき風土にあった建物が受け継がれにくい状況が生まれている。



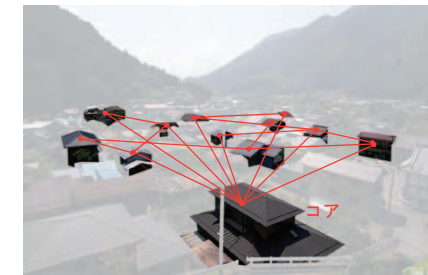
3：若者世帯の移住・定住環境の考察

多数の市町村にヒアリングする中で、どの自治体も地元や周辺地域から移住・定住を希望する若者世帯から問い合わせが来ていることがわかっていく。
ただし、農地付きの大きな空き家は現代の核家族から好まれず、成約するに至らず結果別の地域へ移住定住してしまう事例が多くみられる。
また、公営住宅がある地域であっても同様のことが起きており、子育て世帯で手狭になった世帯が近隣で土地を探す全く出てこず、やむ無く慣れた集落を離れる選択をするケースが増えている。



1：運用について

○ひとつの集落で連携して住もう



一つの空き家をアパートメントとするのではなく、複数の空き家、家主は住んでいるが空き部屋に居住や水廻り部分のみの貸し出しなど、**既存空き家の良いところ取りをして地域で連携して住もうシステムとする。**イニシャルコストを抑え、他の住人の利用による収益で次の事業へ地域一体となって移行していく計画。

○あきないプロジェクトがキーパーソン



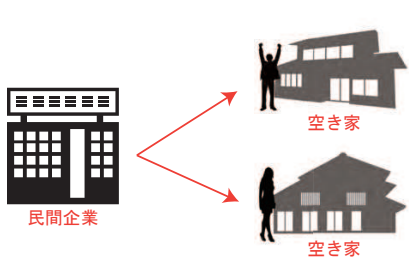
あきないプロジェクトは地域の空き家や地域住民、借主のニーズに合わせて空き家を紹介し橋渡しを行うキーパーソンとなる。あきないプロジェクトは行政と民間、空き家バンクなどと一体的となり空き家を活用していく。

○お試し移住や民泊



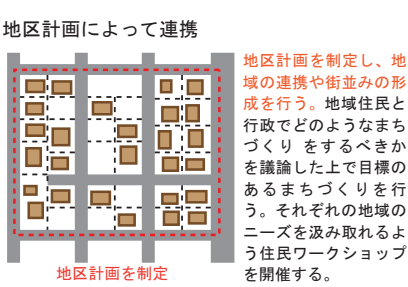
移住者を受け入れる自治体や企業などが、**古民家や自然環境が豊かなロケーションなど、地域の魅力を体験できる場所を提供する。**移住先の地域で一定期間暮らすことで、地域の文化や生活環境を体験しながら移住を検討し、移住後の地域とのミスマッチのリスクを減らすことができる。また、民泊として貸し出すことも可能である。

○民間企業と一緒に作り上げていく

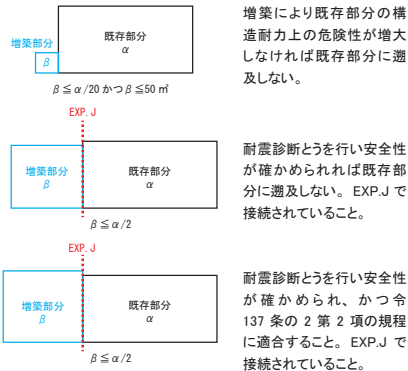


地域の企業と連携して空き家を絡めた事業を行ったり、企業の社宅として**地域に若い人を住ませ、地域の活性化を図る。**地域に若者が介入することによって、お祭りなどの伝統を守っていくこととなる。

○法令、条例、地区計画など



既存増築における問題を条例でカバー



既存建物に対して増築を行うと、構造計算による既存建物の耐力の確認が必要。既存建物ストック活用に対してマイナスな印象。**長野県の条例にて平屋、2階建てで床面積が小さい物に対して、既存建物ストック活用に対して、法令緩和を行う必要があるのでは。**

2：みんなで作る

○地域の職人の手で作る



古くから日本で受け継がれてきた職人の技術が後継者不足により徐々に失われている。現在では大手メーカーや企業による市場支配が目立ちます。技術の進化に伴い、建設プロセスは効率化され、標準化が進んでいます。これは利便性やコスト削減には貢献していますが、**職人たちの独自の技術や創造性の場が失われつつあります。**



積極的に地域の工務店・職人さんと一緒につくっていく。今こそ、建設業界において職人の技術と創造性を再評価し、その価値を見出す時です。それによって、より豊かで多様な社会が築かれるでしょう。**職人の技が光る建築は、私たちの生活を豊かにし、次世代に向けての大切な遺産となり得ます。**

○地域のみんなで作っていく



地域で愛される場所をつくるために、職人だけでなく、建築主や地域の住民と一緒に DIY でつくっていく。**自分たちの手でつくり上げていくことによって愛着の持てる地域が生まれる。**DIY によって得た経験は次の空き家の対策で発揮される。



地域の住民とどのような場所が必要かをワークショップにて意見交換を行い、**みんなで作くり上げていく。**家づくりを通して、地域住民の方々と交流し、コミュニケーションを深められる。世代を超えて協力し合い、創り上げる過程は、かけがえのない経験となる。

○空き家について学ぶ



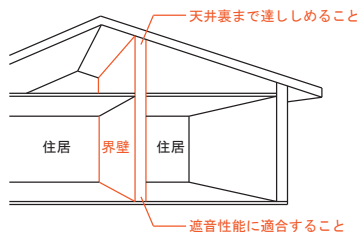
地域の小・中学生に空き家の現場、空き家の活用について学んでもらう。地域社会が抱える課題を理解することができる。また、建築を学ぶ大学生が積極的に関わってもらい、新たな活用方法を地域の住民と一緒につくり上げていく。将来の地域社会を担う人材として成長することができる。



空き家を積極的にイベントを行う場として使用する。空き家の売却や賃貸に伴う税金に関する相談など、空き家に関する税法に関する知識や経験を、適切な税務アドバイスを行うことができます。

3：構造・構成

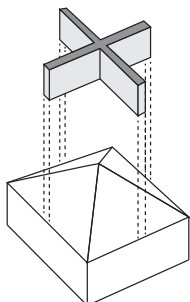
○用途変更による構成



用途変更により、『長屋』又は『共同住宅』へ変更する場合、住戸間の壁には**界壁**を施工する必要があります。界壁には一定の遮音性能と耐火性能が求められており、小屋裏まで達するように施工する必要があります。

関係法令：建築基準法第30条
建築基準条例第114条

“界壁 兼 耐力壁”



用途変更による法令適用に伴う改修方法として、界壁を耐力壁として既存空き家の構造を担保する。

○耐震診断・性能評価

耐震診断士による診断



耐震診断士が適宜空き家の調査を行い、適切な診断による耐震改修をご相談します。

住宅性能評価



断熱材、サッシの改修工事により建物の性能をあげる。また、腐食部分の改修を適切に行うことにより、より長く建物を使い続ける。

○改修方法



グループのメンバーである建築士が適切に改修方法を計画します。機能性を確保しつつ、既成の枠に囚われない建築を目指し、自然素材がもつ魅力を生かした建物を計画します。

筋かいを入れたり、構造用合板を貼って壁を強くする



土台・柱・筋かいなどの接合箇所を金物などを使って堅固にする。建物全体が地震時にねばり強く耐えるためには、柱や土台などの各部材が健全である必要があります。

屋根を軽くする

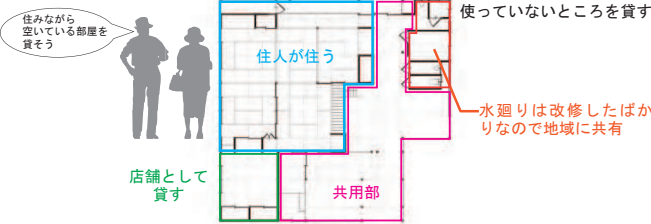


屋根が重いと地震時に建物に大きな力が加わりやす。屋根を軽くすることも地震対策に有効です。

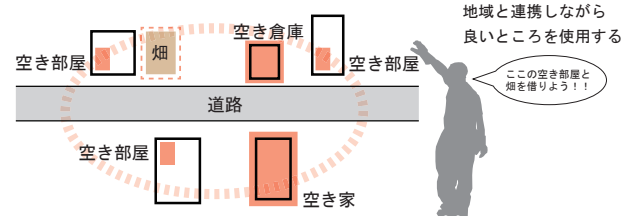
4：空き家アパートメントの効果

○良いとこ取り

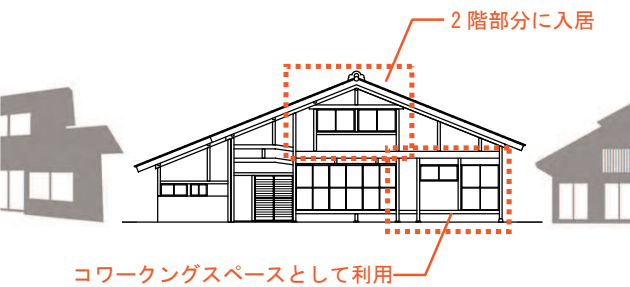
建物としての良いとこ取り



町としての良いとこ取り

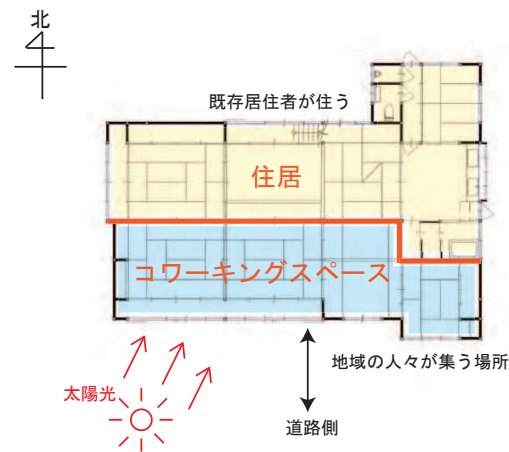


○初期費用を抑える



既存建物の良いところを使用する。そのことにより初期費用を抑えられる。地域で空き家の使用できるところを共有して一体的に使用していく。

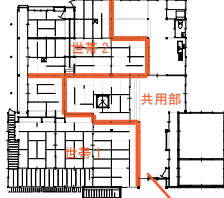
○地域の特徴に合わせた計画



敷地の条件や建物の方角、大きな古民家や建売住宅など、さまざまな条件が空き家にはある。地域住民と一緒に話し合いながら貸し出す。

5：空き家アパートメント パターン

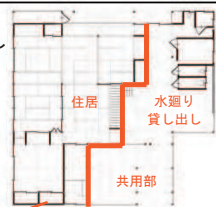
二世帯 パターン



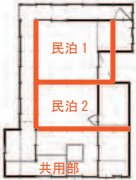
住居 + 貸店舗



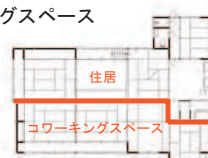
住居 + 水廻り貸し出しパターン



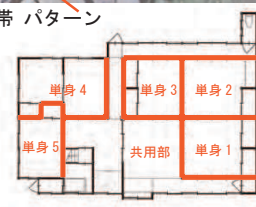
民泊 パターン



住居 + コワーキングスペースパターン



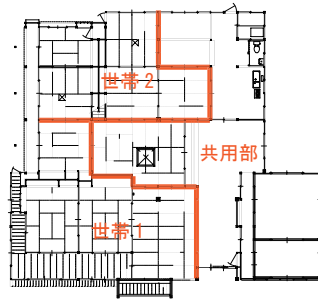
単身世帯 パターン



※場所はイメージです

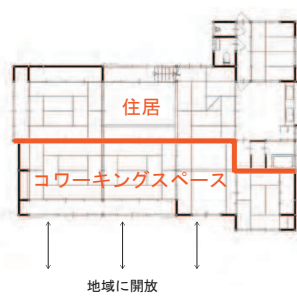
5：空き家アパートメント パターン

二世帯 パターン



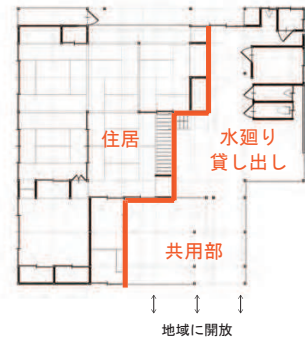
二世帯が住まいながら共用部を地域に開く

住居+コワーキングスペース パターン



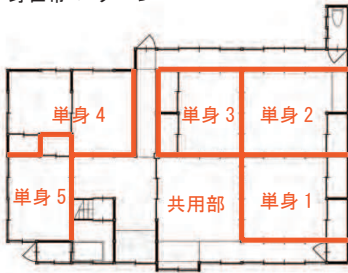
住人は住まいながら使用していない部屋を
地域に開放してコワーキングスペースとして貸し出す

住居+水廻り貸し出し パターン



住人は住まいながら
改修したばかりの水廻りを地域に開く

単身世帯 パターン



空き家全てを単身者が住める部屋として改修
お試し移住の対応も可能

住居+貸店舗 パターン



住人は住まいながら使用していない部屋を
地域に開放して店舗として貸し出す

民泊 パターン



空き家全てを民泊部屋として改修
共用部は地域と交流ができるよう開く

私たちは“空き家をつくらない”ことを本気で考えているチームです

空き家問題と可能性

「空き家の課題」には様々なミスマッチが起きています。
我々は現代社会における可能性“シェア”・“連関”・“交換”をキーワードに、
ミスマッチを解消する3つの対策を提案します。

課題

MISS MATCHING している項目

高齢世帯・住民

(家と生活スタイルが合わない)

- 1: コンパクトな家に住みたい
- 2: 大切な家売りたくない

子育て世帯・移住者

(家が狭い・賃貸がない)

- 1: 公営住宅だと子育てには手狭
- 2: 賃貸できる空き家がない
- 3: 良い土地・建物が見つからない
- 4: 畑が気軽に借りられない

改修費用

- 1: 改修費用の負担が大きい
- 2: 耐震改修の費用を捻出できない

大きな空き家

- 1: 維持管理が大変
- 2: 高齢者だけでは使いきれない
- 3: 冬は寒く老体に堪える
- 4: 大きな農地、山林の維持管理が大変

公営住宅

- 1: 公営住宅の入居率が低下している
- 2: 子育て世帯には狭い



可能性

社会やライフスタイルの変容による3つのキーワードと効果

“シェア”

- 1: 大きな建物が有効活用できる
- 2: 農地や山林が維持管理しやすい
- 3: 家主が貸しやすくなる(いつでも帰れる)

“連関”

- 1: 地域自治の連携が強まる
- 2: 地縁関係が育つ

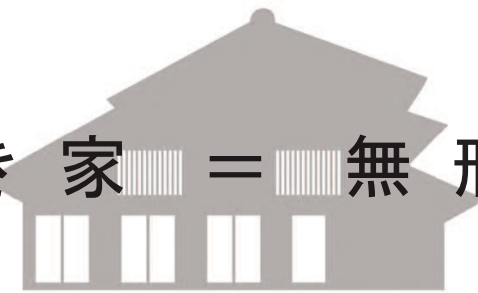
“交換”

- 1: 互いの不足部分を補完できる
- 2: 初期費用がかからない。
- 3: 即効性がある。

提案

家と家の取り替えっこ

空 き 家 = 無 形 資 産



建物として残すこと
皆で残す過程を共有
残す姿勢を次の世代へ

空き家を扱うことは建物を扱うだけにとどまらず
地域や町並み育て、これまでの歴史を次世代へ繋ぐこと。

伊勢神宮 式年遷宮
新しい世に大切なのちと匠の技を伝える。自然に対峙するのではなく、自然に寄り添う普遍（不変）のかたちを維持する。長い伝統を大切に守りながら、常に若々しい世界を維持する。途絶えることのない心の絆として、遠い先祖と私たちをつなぐ。

家 と 家 の 取 り 替 え っ こ



“取り替えっこ”による家と人のミスマッチの解消を提案します

課題・背景

1：高齢者の想い

空き家調査中に高齢の皆さんに様々な声をかけられます。
「家が大きすぎて大変だ。」
「雨漏り修理や耐工事はお金がかかる」
「家をあげるから私たちも若者促進住宅に入れてほしい。」
「何年生きれるかわからないのに、家を直すお金が高くてもったいない」
創建当時は誇りしかたはずの建物に対してネガティブな発言が多数聞かれます。



2：家の大きさのミスマッチ

更に調査を進めると、高齢者の多くが大きな家の一部分だけを生活空間として利用している現状に気がつきます。利用していない部分は、空き家同様に手入れができず急速に朽ちていきます。
このように地方の残すべき風土にあった建物が、次の世代に受け継がれにくい状況が生まれています。



3：公営住宅の未来

公営住宅等に住む子育て世帯は、家が手狭となり周辺の土地建物を探しますが見つかりづらいのが現状です。
また、人口減少の動向から今後の公営住宅の入居率が低下していくことが予測されており、今後、公営住宅群の“空き家化”が進行すると考えられます。



提案：“取り替えっこ”による家と人のマッチング

高齢者世帯と若者世帯における現代の家と人のミスマッチを解消する、“家と家の取り替えっこ”を提案します。



家と家の「取り替えっこ」の仕組み

公営住宅

賃貸できる空き家がない
良い土地・建物が見つからない
・公営住宅の入居率が低下している
・子育て世帯には狭い

広い戸建てに移りたい！！



若者世帯



行政
(空き家バンク)
(地域の信頼) × あきない
プロジェクト



戸建て住宅

・大切な家を売りたくない
・改修費用の負担が大きい
・維持管理が大変
・冬は寒く老体に堪える

維持管理しやすく
人目のある家に移りたい！！



高齢者世帯



MATCHING 後のメリット



- ・維持管理が容易
- ・初期投資なく入居できる
- ・身体への負担がすくない
- ・若者世帯との交流ができる（声かけ制度）

戸建て住宅
長期契約（所有者との交流）

村営住宅の家賃負担
建物の維持管理



- ・住み慣れた土地に家を持つことができる
- ・初期投資額を抑えて改修費用に当てられる
- ・子供を伸び伸びと育てられる
（子供を叱る回数が減った）

「取り替えっこ」による対策と効果

初期投資がいらない

初期投資がなくなり、高齢者・若者世帯が共に自らの生活を豊かにすることに専念できる。



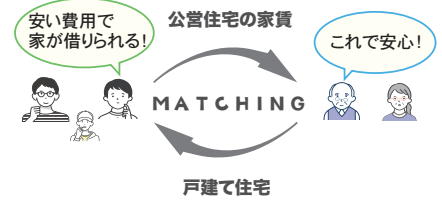
状態の良い空き家が出やすい

物々交換をするには、前提条件として状態の良い家が必要となります。公営住宅に入りたい世帯は家の片付けや維持管理を自然と促します。



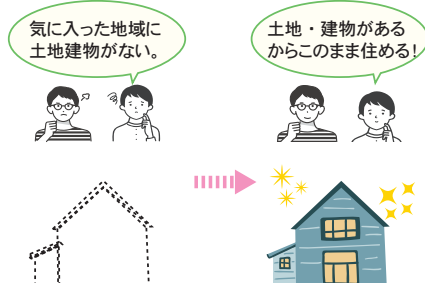
高齢者の家賃を若者世帯が肩代わり

“取り替えっこ”後は、若者世帯が戸建てを貸しもらう代わりに高齢者の公営住宅の家賃を肩代わりします。高齢者の生活費の負担は移住前と変わりません。



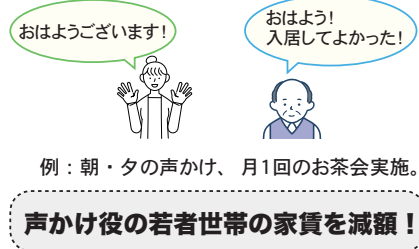
若者世帯の定住が促進される

住み慣れた地域で土地・建物が見つかるため、他の地域へ若者が流出しづらくなります。



高齢者への声かけ制度 (公営の魅力向上)

“取り替えっこ”後の公営住宅に高齢世帯と若者世帯が交流する仕組みを作り、若者・高齢者双方にとっての公営住宅の魅力を上させます。



固定資産税などへの補助制度

“取り替えっこ”の対象世帯は、良好な地域循環に寄与しているとみなし、固定資産税などを補助できる制度を自治体と協議をして作成します。

